

SHIN CLUB 311

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「GRACE HILL」撮影：木谷 元

今月のトーク/monthly talk

世界へ挑む融合の拠点

表参道の洗練された空気と、原宿の独創的なエネルギーが入り混じる東京・神宮前。そのなかで古い街並みと新しい感性が共存する神宮前2丁目の一角に、コンクリートとガラス、そして木材が織りなす特徴的なファサードを持つ建物が竣工しました。周囲の景観に調和しながらも、確かな存在感を放つこのRC造3階建てのオフィスは、事業主である湯畑徹様と、設計アドバイザーの須田哲正氏が20年以上にわたり温めてきた構想の結晶です。

「流行の先端的な場所である神宮前から、世界へ提案を発信したい」。有名アウトドアブランドの製品も手掛けるOEM企業。その日本法人を率いる湯畑様が、日本本社として自社ビルの建設地にこの場所を選んだ背景には、土地が持つポテンシャルへの強い信頼がありました。そして、その場所にふさわしい建築としてお2人が目指したのは、「ミッドセンチュリーモダン」の世界観。1950年代の実験的住宅「ケース・スタディ・ハウス」を彷彿とさせるデザインを、現代の技術で再構築する試みでした。

かつて別の場所で計画されながらも中断を余儀なくされた「理想の社屋」への想いは、20年という年月の中で熟成され、より洗練されたイメージとなってこの神宮前の地で再始動したのです。

そのなかでも特に注力されたのが、建物の核となる空間構成です。限られた敷地の中で最大の容積を確保しつつ、いかに豊かな空間をつくるか。その答えとして導き出されたのが、吹き抜けを介した中二階の設置でした。「広さを優先して全面を床にするよりも、どうしてもこの中二階と吹き抜けを実現したかった。ガラス越しに、鉄骨のH鋼が隠れずにそのまま見えるようにしたかったのです」と、湯畑様。この言葉通り、構造体である鉄骨をあえて剥き出しにすることで、インダストリアルな強さと、計算されたデザインが同居する独自の空間が生まれました。無骨な鉄のラインと、温かみのある2階天井の突板、そしてコンクリートの質感。それらが神宮前の外光を取り込みます。

定例会議は常に建設的で、難題に直面しても「どうすれば実現できるか」を全員で楽しむようなポジティブな空気が流れていました。壁の色ひとつ、レンガの配置ひとつにも妥協を許さないプロセスを経て、理想が現実の形となって現れたとき、現場には大きな達成感が満ちていました。

20年来の夢と、つくり手たちの熱意が交錯して生まれたこの建築。それは、神宮前というクリエイティブな街の風景に新たな深みを与えるとともに、ここを拠点とする人々の創造性を刺激し続けます。

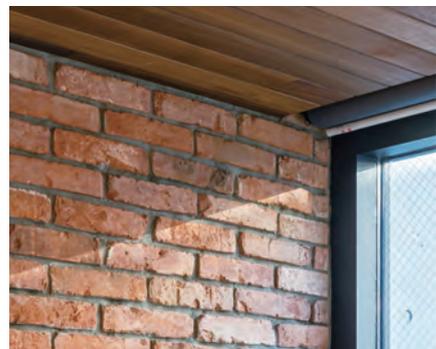
GRACE HILL



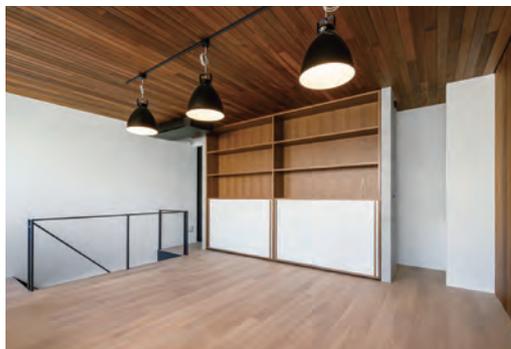
建物夕景



建物屋上



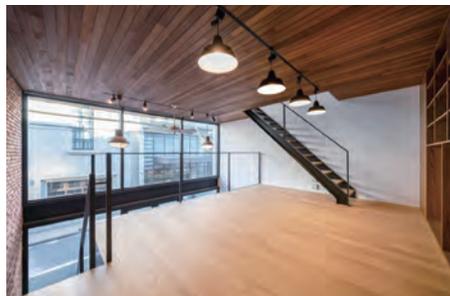
経年変化の風合いを演出



建物3階



こだわりの中二階



こだわりの天井突板



棚には取り扱う製品が並ぶ予定

素材が語る機能美

本建築のデザインコードは「ミッドセンチュリーモダン」であり、その特徴である異素材の組み合わせが設計の主軸となっている。強固なコンクリート躯体をベースに、鉄、ガラス、木材を適材適所に配置することで、素材そのものの質感を強調する意匠とした。

内装において特筆すべき点は、各所に採用されたこだわり抜いた素材である。特に床や建具に使用されたチーク材は、現在では希少性が高く高価な木材だが、空間の品格を決定づける要素として採用された。これは、限られた空間だからこそ、密度を高めて質の良い素材を用いる方針によるものである。また、壁面には白のメラミン化粧板を使用しているが、ヴィンテージ家具との相性を考慮し、数あるサンプルの中から絶妙な凹凸感と色味を持つ品番を選定している。レンガについても、新品ではなく経年変化を感じさせる風合いのものを選び、目地の色や太さに至るまで微調整をおこなった。

空間構成においては、3階層の中に「中二階」を設け、垂直方向の変化を生み出している。この中二階と吹き抜け空間をつなぐ要素として、構造材である鉄骨（H鋼）を隠すことなく「現し」仕上げとした。黒く塗装されたH鋼は、空間に構造的なリズムを与えると同時に、視覚的な引き締め効果を果たしている。さらに、通りに面したファサードには壁一面のガラス窓を採用した点も見逃せない。この大開口部からは、外部からでも特徴的な中二階の構造や吹き抜けの広がりが見え、建物内部のエネルギーが街へとにじみ出すような効果を生んでいる。天井部には小幅の突板を設置し、その直線的なラインが空間にリズムを与え、奥行き感を演出している。

フロア構成は、1階を商談スペース兼ショールームとし、海外拠点とも接続可能な大型モニターなどの通信設備を完備。2階は執務スペースとして機能性を確保した。地下1階は作業場として計画されているが、コンクリート打ち放しの壁面とヴィンテージ家具を組み合わせ、一般的な工場のイメージとは異なる、デザイン性の高い空間に仕上げている。建築単体ではなく、家具と一体となって完成する「ケース・スタディ・ハウス」の思想が、より明確な形で具現化された。

(株式会社マシン・エイジ / 須田哲正氏 談)

構造：RC造
 規模：地上3階
 用途：一戸建ての住宅一棟
 設計監理：小川晋一都市建築設計事務所
 内装・家具設計：株式会社マシン・エイジ / 須田哲正
 竣工：2025年12月
 施工担当：鍋島（谷田チーム）
 撮影：木谷元



Toru Yubata



Tetsumasa Suda

—湯畑様と須田氏、お2人の出会いのきっかけをお聞かせください。

須田：出会いは20年以上前にさかのぼりますよね。

湯畑：そう。当時、私は家を購入したばかりで、インテリアには全く詳しくありませんでした。それでも、せっかくのマイホームですから、何か味わいのある、ヴィンテージ感のあるものを置きたいと思い、目黒通りの家具店を巡っていたのです。それで偶然入ったのが、須田さんのお店でした。

須田：当時の湯畑さんは、家具については初心者でしたけど、他の分野ですでにコレクションをお持ちで、非常に感度が高い方だと感じました。その様子を見て、一般的な初心者向けの商品をお勧めしても、すぐに飽きてしまうだろうと直感したのです。だから、あえて最初からイームズやジョージ・ネルソンといった、ミッドセンチュリーデザインの「本物」をご紹介しました。

湯畑：須田さんの熱心な解説を聞くうちにその世界観に惹き込まれて、気づけば購入していました。それ以来、私が何か新しいものを探すときは、まず須田さんに相談する。そうやって20年かけて築いてきた信頼関係が、今回のプロジェクトの土台になっています。

—今回の計画は、どのように進められたのか教えてください。

湯畑：私が持っているぼんやりとしたイメージを、須田さんが具体的な形に翻訳してくれる、という流れでした。私は気に入った建築の写真をプリントアウトして、「こういう雰囲気が好きだ」と須田さんに投げかけていきました。実は20年前にも一度、新社屋を建てる計画があったのですが、当時は実現しなかったんですね。

須田：ただ、もしあのときそのまま建てていたら、今とは全く違う、もしかしたらもっとチープなものになっていたかもしれません。湯畑さんの知識やイメージも、この20年で間違いなくアップデートされていますから、今のタイミングでこそ、この完成度に到達できたのだと思います。湯畑さんの頭の中にあるイメージは「ミッドセンチュリーモダン」で一貫していました。私の役割は、そのイメージを実際の建築としてどう成立させるか、素材や色のバランスを整えること。法的な規制や構造的な課題は設計者の小川晋一さんが解決し、私はデザインの質感を監修してきました。

湯畑：私のリクエストに対して「それなら、こちらの素材のほうがより雰囲気が合いますよ」と、プロの視点でブラッシュアップしてもらいました。辰さん含め、こちらの要望に対して、どうすれば実現できるかを一緒になって一生懸命考えてくれるチームだったと思います。

—湯畑様のこだわりは、展開している事業にも普段から表れているのでしょうか。

湯畑：そうですね。私たちの本業はOEM製造です。現在は中国の福建省や安徽省、そしてベトナムのハノイに自社工場を構えています。40年以上前、熱でビニールを溶着する使い捨てカップの製造からスタートし、時代の変化とともに技術を磨き続けてきました。現在は、ただ縫うだけではなく、生地にポリウレタンフィルムとトリコットを貼り合わせる「3層構造」の特殊加工や、ミシン穴からの浸水を防ぐシームテープ処理など、完全防水を実現するための高度な技術を提供しています。その技術の証明が、「ゴアテックス」の認定です。ゴアテックス製品を製造するためには、工場自体が厳しい審査をクリアし、認定を受けなければなりません。私たちの中国とベトナムの工場はすべてその認定を保持しており、某有名アウトドアブランドの製品も年間約数十万着ほど生産しています。クライアントから「そこまでやるか」と言われるクオリティを追求し、世界中の市場へ送り出す。その積み重ねが私たちの誇りであり、こだわりですね。



—最後に、完成した新社屋での今後の展望をお聞かせください。

湯畑：OEM事業においては、当社の技術力を活かし、台湾の本社と連携しながら、この神宮前から世界中のクライアントへ提案を発信していきたいと考えています。ここは流行の最先端が集まる場所ですから、その空気を肌で感じながら、ここから世界中のクライアントへ新しいアイデアを発信していきたいと考えています。そして今回、私たちが最も熱を入れている新たな挑戦が、自社ブランド「Tool Craft」の始動です。これまではおお客様の要望に応えるものづくりが中心でしたが、自分たちが作りたい、こだわりを詰め込んだ製品を世に送り出したいという想いが強くなりました。まずは日本国内でしっかりと足場を固め、将来的には海外のショップにも採用してもらえるようなブランドにしたい。この場所から世界へ、提案やアイデアを発信していければと願っています。

—湯畑様の思い描く世界がこの場所からどう広がっていくのか、楽しみにしています。本日はありがとうございました。

湯畑 徹 (建て主様)

港岱国際 JAPAN 株式会社 代表取締役社長

1984年 港岱国際株式会社を設立

2010年 GORE-TEX 認証を取得

～ 欧米日中のマーケットを積極的に開発

須田 哲正 (内装・家具設計)

1960年 愛知県名古屋生まれ

1991年 株式会社マシン・エイジ設立

目黒通りに「アール・デコ モダン」出店

1994年 骨董通りに「ミッド・センチュリー モダン」出店

1997年 目黒通りに「モダニカ」出店

2007年 「case study shop」出店

TOPICS/INFORMATION

港岱国際 JAPAN 株式会社の新ファッションブランド「Tool Craft」とは

本紙 3 ページでご紹介しました、港岱国際 JAPAN 株式会社の新ファッションブランド「Tool Craft」。



デザイナーの住友様

新ブランドの誕生には、港岱国際 JAPAN 社が長年培ってきた高度な縫製技術と機能性をもっと手軽に、多くの皆様に使いやすい形で届けたいという想いから誕生しました。湯畑徹社長と、企画・デザイナーの住友雅生様にお話を伺いました。

—「Tool Craft」というブランド名の由来は。

湯畑：機能的なアウターウェアですが、生活するなかの「道具」=「ツール」として捉え、ただお洒落で着るのではなく、雨が降って濡れないための服であり、雪が降っても凍えないための服。機能性を活かした、道具としての服という想いから「Tool Craft」としました。



リリース前の製品

ただ、機能が良くても格好が良くなければ服としては魅力にかけてしまいます。

そこで、機能性のある服の原点を見直したとき、アメリカンカジュアルやビンテージと呼ばれるもののベースは作業着（ワークウェア）で、炭鉱労働者のために耐久性を考慮して作られたの

がデニムやジーパンですね。軍隊の防水のために作られたゴアテックスや、空軍パイロットの防寒のために作られたのが MA-1 だったり。全て高い機能性を求められて生まれた服ですが、今やファッション業界でお洒落として絶大な人気を得ています。

機能性の高い服を作り続け、その最高の縫製技術と機能性を追求してきた我々だからできる「お洒落 + 高機能性」を形にした新ファッションブランドなのです。

—見お洒落なアウターに見えますね。

住友：そこが「Tool Craft」の魅力で、見た目は一般のアパレル系の服に見えるようにデザインしています。また、社内で工場を構えており、専任のパターンナーによって型紙から製作しているため、着たときのボディーラインや膨らみなど細部に至るまで研究・検証して製品化しています。新ブランドの想



アウターに合ったカジュアルウェアも揃うのは、「多くの方々に、普通の服として気軽に着てもらいたい」。そのため、素材選びにもこだわり、その服を着て街中を歩いても、ただお洒落な服を着ているというように感じてもらいたいです。

今年の春、港岱国際 JAPAN 社の最高の技術と最高の機能性を備えた「Tool Craft」がプレスリリースされます。

日本のみならず、世界各国で多くの人々に「Tool Craft」の服が着られるのが待ち遠しいです。皆様、是非ご期待ください。

「中期経営計画 2030」 — 新たな挑戦「辰コミュニティ」—

1月7日（水）、今年最初の全体会議で、代表の岩本より、辰の経営計画である「中期経営計画 2030」が発表されました。

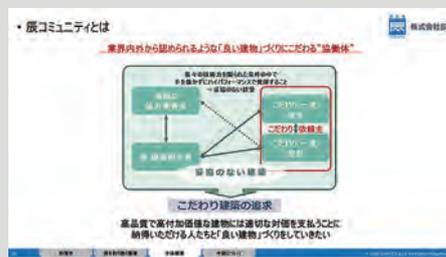
1990年バブル崩壊をきっかけに、建設業界を取り巻く環境は年々変化し、業界にとって厳しい時代が続く昨今。「こだわり建築施工分野で日本一」を目指す弊社ですが、この厳しい時代を生き抜き、より耐力のある企業となるべく、先5年間における経営計画「中期経営計画 2030」を策定し、皆様の想いの詰まったこだわり建築を造り続けていきます。



そのなかで発表された「辰コミュニティ」。

一流のこだわりをもつお客様と設計者、匠の技術をもつ一流の専門業者

とともに妥協のない建築にこだわる協働体です。建築業界の成長・発展のためには「施工従事者の社会的地位向上」が欠かせないと代表の岩本は語ります。今後も続いていく人手不足、専門業者確保難をご理解いただいたうえで、高品質で高付加価値な建物には適切な対価を支払うことにご納得いただける人たちと「良い建物」づくりをしていきたいという取り組みです。



多くの皆様に、「辰に施工してもらってよかった」「またお願いしたい」と言っていたくれるよう、社員一同精進してまいります。

「MAP」新築工事

上棟式 12月15日（月）



無事故無災害で上棟をむかえることができました。引き続き安全第一で取り組みます。

構造 / 規模：RC造 / 地下1階・地上3階
用途：一戸建ての住宅
設計：SAAD / 建築設計事務所
施工担当：鯨津・竹澤・早川 / 特建事業チーム
竣工日：2026年5月

「渋谷 XROSS」完成内覧会がおこなわれました

2026年1月30日（金）・31日（土）

1月に竣工しました「渋谷 XROSS」で完成内覧会が開催され、2日間の開催で200人を超える方々が来場されました。1/31（土）には設計者の安藤耕作氏も参加し、模型を元に来場者へ丁寧に説明されていました。近日 SHIN CLUB にてご紹介させていただきます。ご期待下さい。



所在：東京都渋谷区神宮前 | 構造：S造 | 規模：地上9階 | 用途：店舗（物販・サービス業・飲食）9戸 | 設計：AIG | 竣工：2026年1月 | 施工担当：高樫・高橋・郷チーム

編集後記

・港岱国際JAPAN株式会社の新ブランド「Tool Craft」製品を実際に触ってみました。非常に軽く防寒性、耐水性に優れた素晴らしい商品でした。フィッシングやウィンタースポーツをされる方にも是非

オススメ。店頭販売される日が楽しみです。

(株)辰通信 Vol.311 発行日 2026年2月10日

編集人：本間夏来/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから →

